

# Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局  
東部教育局  
〒680-0846  
鳥取市扇町2番地  
東教発 H24.11.1 No.116  
http://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/

## 一人一人が考えを持ち、練り上げ、深める

城北小学校では、ルールとリレーシンの確立した人間関係を基盤として、算数科と道徳の授業研究を通して「進んで学び、伝え合い、高め合う子どもの育成」に取り組んでいます。道徳教育で培われた心情や態度が算数科の学習の中でも生かされ、相互に効果を発揮しています。



鳥取市立  
城北小学校

### 《算数学習の流れ》

#### 〈つかむ〉

- ・お話づくり、問題づくり
- ・既習内容と似ているところ、違うところ

#### 〈見通す〉

- ・どんな答え、方法になりそうか
- ・どんな考えが使えるか

#### 〈取り組む〉

- ・自分で考えた方法で解く
- ・他の方法で解く(操作活動を取り入れる)
- ・確かめをする

#### 〈練り上げる〉

- ・考えを伝え合う
- ・よりよい考えをつくり出す(生活とつなげる)
- ・よさを見つける(友だちの考え、自分の考え、算数のよさ)

#### 〈生かす〉

- ・学習してきた考えを使って書く
- ・振り返りを書く

### リレーシンを大切にした「練り上げ」のポイント

- ★書きながら自分の考えを発表させる。(ホワイトボードや、具体物を活用しながら、思考の流れがわかるように)
- ★全員が自分の考えを伝え、友だちの考えを聞く場を設定する。(ペア、グループで)
- ★考えを比べさせることで共通点や相違点を明確にさせる。(みんなで)
- ★わからない子どもの疑問を大切に、よりよい考えをみんなで見つけていく。
- ★みんなでつくり出した解答をノートに書いて検証する時間を確保する。

#### 自分と友だちの考えを比べて、よさを確かめる。

道徳の時間において、自分の考えを伝え合う態度を育て、算数科では、お互いの考えを伝え合い、理解を深め、よりよい考えをつくり出す練り上げる場面を大切にしています。



#### 他の活動においても

##### こんな工夫が！！

- ・問題場面を生活経験とつなげる。
- ・自分の考えを何通りもノートに書く。(絵やテープ図、言葉を使って)
- ・誤答を消さない。
- ・努力を要する子どもを「～できない」でなく「～を解決しようとしている」ととらえて手立てを考え、支援する。

ルールとリレーシンを大切に、つながり合い、支え合うことで、子どもたちの学びは深まります。「まちがえても大丈夫」という安心感のある集団の中で、子どもたちは学ぶ楽しさを実感していくのです。

## 学び続ける教師

## 局長 久岡 賀代子

宮沢賢治の生涯についてのあるテレビ番組を見て、以前、花巻市の宮沢賢治記念館に行ったときのことを思い出しました。館内には、教育に対する賢治の思いが紹介されていました。

正しく強く生きるとは銀河系を自らの中に意識してこれに応じて行くことである。われらは世界のまことの幸福を索ねよう 求道すでに道である。

自然と共生することを大切にした賢治に学んだ子どもたちは、自然の不思議さやすばらしさを感じ、「授業がおもしろい。」と心と身体を弾ませて生き生きと学校に通ったことでしょう。館内を回ると、その理由が分かるような気がしました。子どもたちの将来を見据えた、自然を体験する教育が、子どもたちの「生きる力」を育てていたことでしょう。賢治のように発想を豊かにした教師が導く学習は、自らの様々な体験から生まれてくるものだと感じました。

我々教師には、実に多くの資質能力が求められています。教育は時代の要請に応えるべく、その使命を持っています。今ある問題から目を背けず、広い視野で物事を見つめ、そこから自分を高め、たえず学び続ける教師でありたいものです。

社会教育  
コーナー

できる人が できるときに できることからスタート  
～地域で育む学校支援ボランティア事業の取組から～

「思いやりや感謝の心、生きる力を育てたい。」「ふるさとを愛する心を育てたい。」など、学校が育てたい子どもの姿には、地域も共通する願いが含まれています。県は昨年度7月より『地域で育む学校支援ボランティア事業』を推進し、学校を支援しています。東部地区も昨年度の八頭町（全小中学校）に加え、今年度新たに鳥取市（14小学校、6中学校）の学校が事業を活用しています。今年度の取組の様子を紹介します。



放課後学習支援(散岐小)

【支援内容と活動事例】	【成果と課題】	【取組の工夫例】
<p><b>＜学習支援＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国語科の音読の聞き手として低学年児童の音読を聞く。</li> <li>○算数科のそろばん（4年）の学習で、小数の加減の支援を行う。</li> <li>○家庭科の学習で「縫い物応援隊」を組織し、裁縫やミシン操作の支援を行う。</li> </ul> <p><b>＜学校支援＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○花壇や学級園、芝生の世話等を児童・教師とボランティアが協力して行う。</li> </ul>	<p><b>＜成果＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ボランティアの方に支援してもらうことで、子どものモチベーションが高まった。</li> <li>○教師が同僚に学習支援の良さを伝え、その後、他の学年の要請が増えた。</li> <li>○ボランティアの方も支援する喜びを感じておられ、次も参加したいと話しておられた。</li> </ul> <p><b>＜課題＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ボランティアの支援の良さを教職員が十分理解する必要がある。</li> </ul>	<p><b>＜地域とのつながり＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○コーディネーターを依頼する際には公民館や自治会に相談を持ちかけて話し合う。</li> <li>○公民館に掲示板を設置してもらい、ボランティアの募集や事業の紹介を行う。</li> <li>○保護者もボランティアに登録し、可能な限りの支援を行う。</li> </ul> <p><b>＜教職員の理解＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○他校の有効な活用例を参考にしながら、校内でボランティアの支援に関する情報を密にし、支援の要請を募る。</li> </ul>

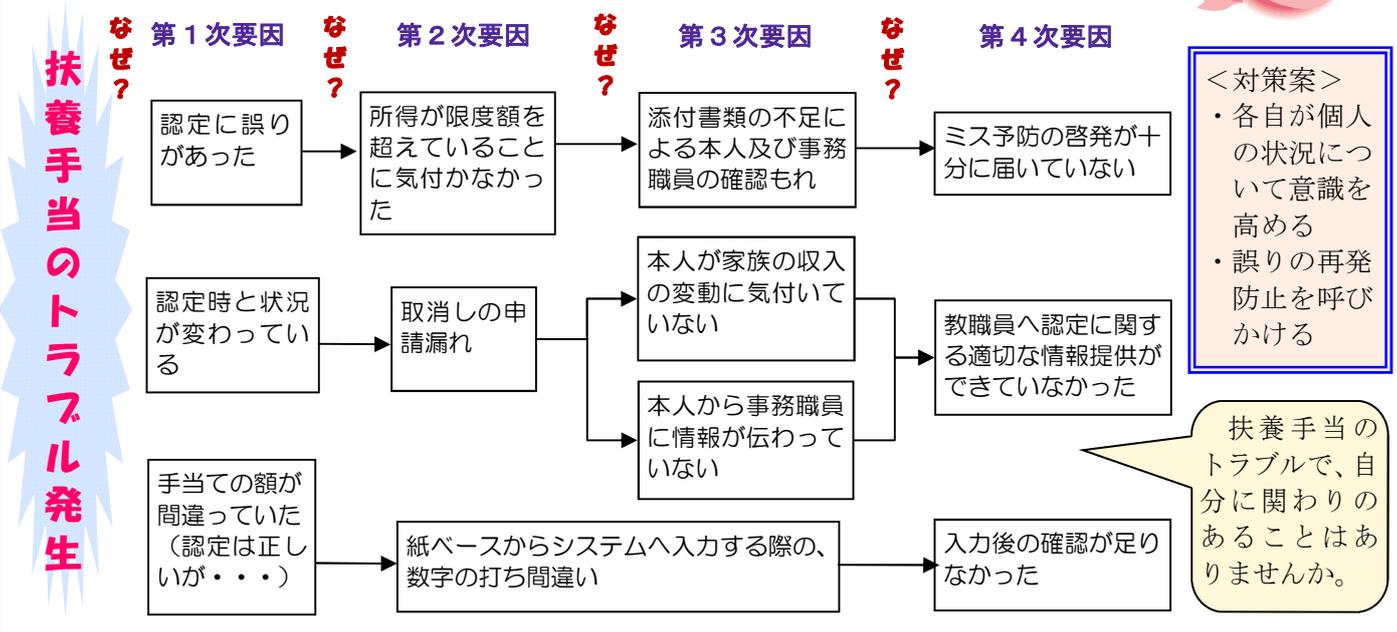
子どもは地域の宝、地域の将来を担います。子どもの教育にかかわることは、未来のまちづくりに参画しているのと同じです。保護者や校区の方々をつながる方法のひとつとしてこの事業を活用していただき、学校運営にぜひ地域の力を有効に取り入れ、心豊かな人づくりにつなげましょう。

**学事コーナー**

**「なぜ？」 「なぜ？」を繰り返して真の要因をさぐる ～業務改善に向けての取組紹介～**

学事係に寄せられる「HELP!」の声。それらには様々な要因が潜んでいました。皆さんも、それぞれの分掌で『なぜなぜ分析』を試みてはいかがでしょうか。

＜昨年度から扶養手当だけで38件もありました＞



# 学校教育の土台としての“学級づくり” ～今、学級を見つめて！～

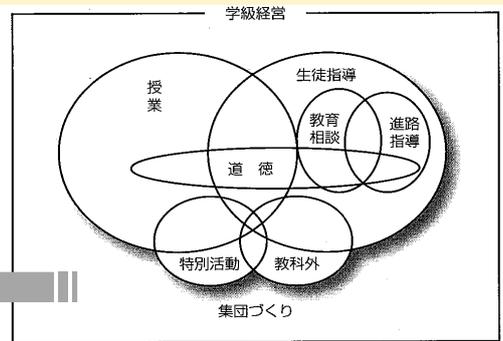
いじめや不登校問題の未然防止やその解決に向け、現在、各校において様々な取組が行われているところです。いじめ・不登校の問題を考える時、学校教育における学級の意味や学級づくりの重要性について、学校全体で問い直してみることも重要です。

## The Report

「全県不登校対策研修会 (6/21)、いじめ・不登校の未然防止研修会 (9/25)」講師の河村茂雄先生と品田笑子先生の講義・著書をもとにした学級づくりに関するポイントです。

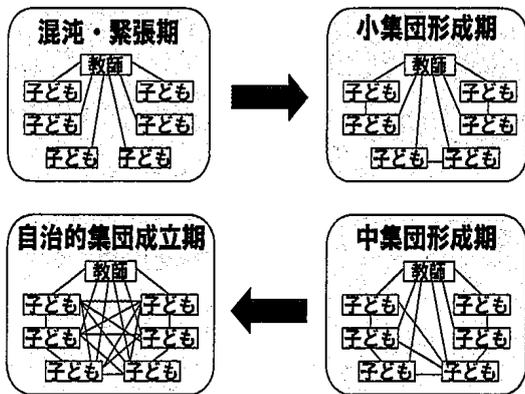
### 子どもの学習は、「学級」の影響を強く受ける

学級集団の状態が、児童生徒個々の学習意欲、友人関係形成意欲、学級活動意欲に影響を与える！



学級経営を基盤とした教育活動の概念図

### 発達という視点で学級集団をとらえ直すことで、見えてくるものがあります！



リレーションの広がり

### 各発達過程における学級内の特徴

- 【混沌・緊張期】息苦しい雰囲気がある、既にある友人関係に閉じこもる、他者と表層的な付き合いをする、教師を知るための試し行動が見られる
- 【小集団形成期】学級のルールを徐々に意識するようになる、小集団同士の友達の引っ張り合いやトラブルが多い、気心の知れた小集団内の交流が目立つ
- 【中集団形成期】学級のルールがかなり定着している、小集団同士

のぶつかり合いの後の一定の安定が見られる

### 【自主的集団成立期】← 望ましい学級集団の状態

自由で温かな雰囲気がある、学級のルールが内在化している、温和的な雰囲気がある、学級の問題を自分たちで解決しようと話し合う、意欲的で自主的な活動が多い、子ども同士の学び合いの姿がある、親和的で支持的な反応が多く見られる

### 例えば、こんな光景が学級で見られるように

○孤立気味になりそうな子どもにさりげなく声をかけ、仲間に入れている。

○誰かが片付けをしていると、さっと手伝っている。

○子どもたちが積極的に話し合い、合意形成をしている。

○失敗した子どもに「どんまい」などの言葉をかけて励ましている。

### 教師のアプローチの視点

人間関係づくりに必要な「教師の人的な魅力」を子どもたちに伝える！

- ◆ 子どもの存在を尊重する
- ◆ 自分から子どもに話しかける
- ◆ 子どもが話しかけやすい雰囲気を意識してつくる
- ◆ プラス志向のフィードバックをする
- ◆ ユーモアと遊び心をもつ

### 《POINT》

具体的な言葉や態度で子どもたちにメッセージを送り続けること

### 孤立気味の子どもに対して…

- あらゆる場面での様子を観察
- 教師間で情報を共有
- 個々の教師の意図的にかかわり
- 保護者とのかかわり

「Q-U」「hyper-QU」は、学級を知り育てるための有効なアセスメントツールです。「生きる力」を育成する土台として学級集団をとらえ、これらのアンケートを通して学級集団の状態を客観的に分析し、チームによるアセスメントをふまえて、児童生徒一人一人の指導や支援に具体的に生かしていくことが重要です。そして、個々の教師には何よりも「教育的愛情」と同時に「子どもを見る確かな目」が求められているということを忘れないようにしたいものです。

## 子どもたちが主体的に学ぶ授業づくり part2

### 【ポイント】

- ① めざす子どもの姿を明確にし、ワクワク感のあるめあてを仕組む。
- ② 言語活動の充実を図った学習活動を展開する。
- ③ めあてに対する振り返りを位置づける。

☆学力に関する各種の調査から、今の子どもたちの思考力・判断力・表現力等には、まだ課題があることが明らかになっています。

子どもたちが主体的に学ぶ授業づくりには、上に示したポイント①～③が大切です。今回は②を中心に考えてみましょう。

『言語活動の充実を図る』とは、右のような学習活動を適切に位置づけて、各教科の目標の実現をめざすことです。

今回は、1時間の授業における言語活動を充実させるポイントを、Q&Aでお伝えします。

### ＜思考力・判断力・表現力等を育むための言語活動＞

『言語活動の充実に関する指導事例集（文部科学省）』より

- 体験から感じ取ったことを表現する
- 事実を正確に理解し、伝達する
- 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする
- 情報を分析・評価し、論述する
- 課題について構想を立て実践し、評価・改善する
- 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

## 言語活動の充実Q&A ～学習意欲を高めることが大切です～

**Q** 「言語活動というとなぜ話合いが思い浮かびますが、それ以外にもどんな言語活動が考えられますか。」

**A** 例えば算数科では、式や図、表を使って思考しノートに書くこと、理科では科学的な言葉や概念を使って思考すること、生活科ではお世話になった方へ手紙を書くこと、音楽では思いや意図をもって音楽表現することなど、各教科に様々な言語活動があります。（※上記指導事例集P11～16参照）  
⇒さらに理解しておきたいことは、言語活動自体が目的ではないということです。付けたい力を明確にして、ふさわしい言語活動を設定し、ねらいを達成することが大切です。

**Q** 「みんな真面目でよく話を聞くのですが、学ぶ喜びの見られる活発な授業になりません。」

**A** 学習課題が『子ども自身の問い』になることが大切です。  
⇒教師の意図で課題設定し、望ましい答えが出されるとまとめてしまう授業をよく見かけます。提示の仕方を工夫し、子どもから生まれてくる疑問をもとに、子どもが本気になる課題を設定しましょう。子どもは多様な見方・考え方をもっていますので、よい課題であれば個人のこだわりのある考えなどがふつふつと湧いてくるものです。「よく気が付いたね」と認めることで意欲が高まります。

**Q** 「話合いをさせているのですが、意見を伝え合うだけで話合いが深まりません。」

**A** 「話合いを深める」ためには、仕掛けが大切です。

- ・ 発問のひと工夫（視点を明確にした発問）
- ・ 話合いのツール（短冊黑板や付箋・カード等）の活用
- ・ 意見がつながる工夫



＜よくない例＞

「それでは、意見が出ないので、隣の人と1分間話し合ひましょう。」  
※計画性のない話合いでは効果が上がりません。

⇒発問が、例えば「単に答えを求めていること」が多くあるのではないのでしょうか。考えを交流し合うように問い方を工夫しましょう。また主体的な話合いを手助けするツールも効果的です。

＜視点を明確にした発問例＞「もし自分がりんご農家だったら、どの品種をどのくらい植えますか。」

＜つながる工夫例＞「わたしは～と考えますが〇〇さんはどうですか？（グループでの話型等）」

**Q** 「クラスのムードが硬くて、話合いが盛り上がりません。」

**A** 普段の学級活動やショートホームルームでペアトークに慣れさせるなどして、安心して話せる雰囲気をつくっておくことが必要です。

- ・ 問題点の話合いばかりでなく、楽しい話題を意図的に組む
- ・ クラスの話合いで決めたことは必ず実行し、話し合うことの重みやよさを実感させる



子どもたちの主体的な学びは、個々の学ぶ意欲をいかに高めるかを教師が考えることから始まります。そして、子ども同士が言語活動を通して学び合える学習を設定することが大切です。